

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時00分）

---

◇ 渡 辺 文 彦 君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位3番、渡辺文彦君。

（2番 渡辺文彦君 登壇）

○2番（渡辺文彦君） 通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

私は、この度の一般質問において、2点について行いたいと思います。1点目は大災害時における防災計画のあり方についてであります。2011年3月11日東日本大震災が発生し、甚大な被害を被りました。まだその記憶が鮮明に残っている最中、この4月11、14日熊本においてまたも大きな地震が起こり、甚大な被害が発生しています。3.11の記憶により国、県、市町において大災害時における防災マニュアル整備を急ぎ、ソフト、ハード両面により防災計画を作成し、防災、減災に努めてきています。

熊本においても当然防災計画は作成されていますが、この度の震災において防災計画は十分機能せず、特に初期の被災対応に不備が多く指摘がされています。災害には一つとして同じものがないと防災の専門家は述べられています。常に想定外の災害が起こる可能性があるということでもあります。想定外の不測の事態を全て予想して、あらゆる災害に対応した防災マニュアルを作ることは不可能に近いことでしょう。しかし、教訓によって得られた対応策は講じる必要性があります。

そこで、当町における防災計画が数々の教訓をいかした実行性のあるものになっているか、通告に従ってお尋ねしたいと思います。

2点目は、地方創生に関する施策についてであります。昨年度地方創生に関する「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン総合戦略」が策定され、本年度より各施策が実行されることになりました。

当町においても少子高齢化が進む中、人口減少を招き、地域経済の疲へいが進んでいます。地域経済の活性化は喫緊の課題であります。

町民の多くの方が将来に明るい希望を抱けない状況にあり、何とかこの町を元気にして欲しいと切に望んでいます。

この度策定された総合戦略は、このような町民の声に応えるためのものであります。この総合戦略が本当に町民の期待に添えるように機能しているか、通告に従ってお尋ねしたいと思えます。

以上にて、私の壇上からの質問はこれで終わりとします。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長(齋藤文彦君) 渡辺文彦議員の一般質問にお答えします。

1. 大規模災害に対する防災計画について。①「災害発生時が夜間の場合、防災体制は十分確保できると考えているか」についてでございます。

大規模災害が発生した場合の防災体制につきましては、地域防災計画でその編成が定められておきまして、役場内の各班と消防団及び県や警察、消防署などの関係機関で編成することになっています。初動体制はそれぞれの組織ごとに決められていますが、松崎町の場合は、その災害の程度によって6つの体制に分けられています。

ご質問は、津波を伴う大地震が夜間に発生した場合の職員の対応と思われませんが、まず、こうした地震が発生した場合には、自動放送で地震の発生や津波避難等に係る放送が流れます。職員は町の配備基準の「非常体制」に基づき、自らの安全を確保した後、原則として全員が直ちに登庁することになっています。

しかしながら、津波の状況や道路事情等で、登庁できる職員は限られ、また地域も混乱することが予想されることから、十分な体制を確保するには時間を要すると思われま。

そのため、退職した町職員や消防団、自主防災組織の協力を得て初動体制を立ち上げ、その後、国や県、支援自治体などの支援をいただきながら本体制を作っていくこととなります。

②「災害支援物資、病人、ケガ人の搬送について、今の防災計画で十分機能しうると考えているのか」についてであります。

地域防災計画では、支援物資の輸送については職員、消防団、自主防組織及び物資支援等に係る災害協定を締結している事業所と協力し対応することになっています。また、これにより調達や輸送ができない場合は、県の支援を要請することになっています。

被災者の救出や搬送については、原則的には町が職員や消防団員を動員して行い、消防署、警察、県や自衛隊の協力を得ることになっています。しかしながら、大規模災害時は津波や揺れにより道路や港が被災し、支援を得るのにも時間を要することが予想されます。

防災計画では、現在の制度下での対応は網羅されていると考えますが、その対応が即応できるかという点につきましては、被災状況や支援組織の事情により、難しい局面が多くなってく

と思います。

そのため、特に初動活動においては職員や消防団員に限らず、そのとき健常な住民全てが協力して支援し合うことが大切であり、そうなるよう働きかけていきたいと考えています。

③「防災計画の再点検の必要性について。(1) 町の防災計画で被災の状況を適宜把握できる状況にあると考えるか。(2) 車中避難が発生した場合、状況把握が難しいと考えられるが、いかに対応するつもりか」についてでございます。

被災対応を進めていく上で最初に行なわなければならないことは、状況をいち早く収集し、現状を把握することになります。そのため防災計画では、地域ごとに情報連絡員と補助員を定めているほか、消防の各分団や幼稚園、学校などにも無線機を配布し状況の把握に努めることとしています。

また車中泊についても、情報連絡員等が地域の方々（自主防）から情報を収集する中で把握できると思います。

ただし、情報連絡員だけですべての情報を収集することは難しいため、自主防災組織の協力を仰ぐとともに、警察や消防署、県などとのネットワークにより情報の収集に努めていきます。

(3)「先頃の修善寺の火災で、消火ホースの不備が指摘されたが、当町において問題ないか」についてでございます。

火災に対しては初期消火等の持つ意味は大きく、その後の延焼の大小を左右することになります。そのため、地域に設置してある消火栓の役割にも大きなものがありますが、ホースに穴が開いて消火作業に支障があるようでは、その役割も半減してしまいます。

松崎町の消火栓は消防団が日常の管理をしていますが、消防車に積載しているホースと同様に点検し、交換の必要があるものについては随時交換しているところでございます。

(4)「仮設が必要となった場合どこに予定しているか」についてです。

応急仮設住宅につきましては、松崎町応急仮設住宅整備計画を策定し対応しています。

建設予定地は総合グラウンドと、伏倉の旧民田町営住宅跡地となっております。建設可能戸数は129戸となっておりますが、第4次被害想定が必要戸数に達しておらず、民地の利用を検討せざるを得ない状況であります。

(5)「災害時の職員の対応業務はどのようなものか、役割分担について、また健康面についての配慮はされているか」についてでございます。

災害対策本部各班の事務分掌は、松崎町災害対策本部運営要領で定められています。総務班では本部運営や被害状況の収集伝達、支援組織との連絡調整、健康福祉班では救護所運営や医

療機関との調整、支援物資の受け入れなど、平時の業務に関する災害対策業務を行うことになっています。さらにこれらの中で、大規模災害時において優先すべき非常時優先業務を定めたBCP（業務継続計画）を策定して、限られた状況においても行政活動が維持できるよう努めているところです。

また、その中では職員の健康管理やメンタルチェック、交代や応援体制についても定めていますが、どこの被災地を見ても職員の背負う業務は非常に多いものがあり、応援体制が整うまでは、職員が不眠不休に近い状態で奮闘せざるを得ない状況になると思います。

2. 地方創生に関する施策について。①「10月開催の「日本で最も美しい村」フェスティバルの準備の進捗状況はどうなっているか」についてです。

10月6日から8日の3日間、「日本で最も美しい村」連合フェスティバル2016inまつぎが開催されることとなっており、町では、4月22日に関係団体からなるフェスティバル実行委員会を立ち上げるとともに、委員会の下には運営委員会や庁内担当者会議を置き、準備を進めているところです。

フェスティバルは、NPO法人「日本で最も美しい村」連合と町が共催で、臨時総会をはじめ新規加盟町村承認セレモニー、基調講演、現地視察、全体交流会、連合学習会を行うこととしており、環境改善センターや松崎高等学校体育館を主な会場としております。

町では、これらのスケジュールの中で連合会員の皆様に松崎町の魅力を存分に感じ、一層の交流が図られるよう、町民が一丸となって松崎らしいおもてなしでお迎えしたいと考えておりますので、ご支援、ご協力をお願いいたします。

なお、「日本で最も美しい村」連合やフェスティバルの開催を町民の皆様に知っていただくため、実行委員会と松崎町まちづくりやろうじゃ協議会の共催で6月18日・19日の両日、「日本で最も美しい村」松崎物産展を開催することといたしております。

併せて、6月広報においてフェスティバルについてご紹介するとともに、多くの皆様にご協力を賜りますよう、ボランティア募集を行ったところでございます。

また、フェスティバルの実施に当たりましては、県や美しい伊豆創造センターのご協力もいただき進めることとなっております。

②「28年度、桜葉振興に1,000万の補助金が措置されているが、その効果をどのように捉えているか」についてです。

長嶋議員のご質問で、町の特産物である桜葉についての現状や方針を述べさせていただきましたが、過疎地域等自立活性化推進事業を活用し、本格的に取り組みを始めるところです。

詳細については補正予算審査時にご説明させていただくこととなりますが、生産能力の向上、知名度のアップ、販路拡大、加工品の開発などが中心になると思います。

③「観光業の活性化に交流人口を増やすことが挙げられているが、その施策は十分に機能していると考えているか」についてでございます。

平成27年度に策定した「まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略」の中の重要業績評価指標で、平成24年度35万人であった観光客数を平成32年度には、40万人に増加させる目標を立てております。

そのために、「環境・文化の循環」の中で、松崎の自然を活用したスポーツツーリズムの推進や教育旅行・体験旅行の充実、松崎版クアオルトの整備、長八ゆかりの漆喰文化の取り組みなどを掲げたところでございます。

私は、これまで第一次産業を土台として、体験を通じて対価を得る「全町まるごとふるさと自然体験学校」を推進してまいりました。松崎町ならではの、さまざまな体験を楽しんでいただき、何度も何度も、繰り返し訪れていただけるような、観光地づくりが当町の目指すべきものであると認識しております。

特に、シーカヤックマラソンやトレイルランニング、山伏トレイルなどは、松崎町を代表するスポーツツーリズムとなっており、教育旅行では、県内外の中学生などが修学旅行、教育旅行で岩地地区を訪れております。

また、長八ゆかりの漆喰文化の取り組みでは、なまこ壁技術伝承事業やなまこ壁のクリーニング活動、漆喰鏝絵の普及により松崎らしい景観づくり、文化の継承が行われております。

こうした、町の取り組みもさることながら、伊豆半島の市町が連携し、伊豆は一つのもとに誘客活動を進めることが、交流人口を増やす上で重要なことから、関係7市6町が平成27年度に「美しい伊豆創造センター」を設立し、インバウンド事業をはじめ観光宣伝事業、DMO事業、情報発信などを展開しているところでございます。

④「産業振興策の一つに「シェアオフィス“起人舎”」サポートがあるが、現在どの様に進められているのか」についてであります。

総合戦略の「ひと・経済の循環」の中で、交流拠点整備事業（シェアオフィス整備）として、「町の空き家を活用し、首都圏をはじめとする町外企業のサテライトオフィスや起業者を呼び込むため、「日本で最も美しい村」連合のサポーター企業や大学、金融機関等と連携し、交流拠点（松崎起業学舎）の整備を進めます」としております。

町では、平成27年度に「日本で最も美しい村」連合加盟企業である富士ゼロックス株式会社

と連携し、国の地方創生先行型交付金を活用し、空き店舗を改修し、まちづくりの拠点オフィスや外部人材にワーキングスペースとして活用するためのシェアオフィスとして整備するとともに、町民や来訪者に対してシェアオフィス事業に関連したワークショップを4回開催したところでございます。

平成28年度には、W i F i などの通信インフラ環境の整備やテレビ会議などができる I C T 機器を整備し、7月から9月にかけて、人を呼び込むためのイベントを実施することとなっております。

なお、富士ゼロックス株式会社や長野県木曾町と共同で企業退職者が、地方と都市の二地域に居住しながら、企業で培った経験と知識・技術を、地方の自治体や企業でいかす、新しい働き方である、シニアインターンシップのトライアルを実施することで準備を進めております。

また、5月27日には三島信用金庫と6月3日には静岡銀行と地域社会の発展を目指す連携協定を締結し、今後産業振興の情報交換や調査研究、企業誘致支援などを連携して進めることとなっております。

以上でございます。

○2番（渡辺文彦君） 一問一答でお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○2番（渡辺文彦君） まず、質問に入っていく前に、確認したいことがございます。4月の終わりだったと思いますけれども、県が抜き打ちで朝の防災訓練を町の職員にさせたと思いますけれども、その時の職員の平均集合時間、一番早かった方、一番遅かった方、平均時間、あと、何名位の方が参加したのか。まずその辺を教えてくださいなんですけれども。

○総務課長（山本秀樹君） いま手元に資料がないので、細かい時間までははっきりとは申し上げられませんけれども、職員は通常の・・・、例えば幼稚園の先生とか、そういう外の勤務の方を除いて、庁舎勤務の者は全員やりました。

一番早いのは、確か伝達後6～7分で登庁ができています。一番遅い人間は20分くらいかかっていると、ただ、今回、こういう場合は、道路事情等が特に問題なく来れているということで、それなりに車で来ることこそは制限はしていないので、そういう時間になっています。

ただ、いざという場合は車で来られないとか、徒歩で来るといった形になれば、かなり時間がかかるものと思っています。

○2番（渡辺文彦君） いま私がこのことを確認したのは、まさにその災害が起きた時、実際にそこまで、いま訓練された時間で到達できるかということをやっぱり検証していく必要がある

ということなんですね。それがカバーできていなければやっぱりいくら防災計画があっても、訓練されていても役に立たない、絵に描いた餅に終わってしまうリスクが高いんじゃないかと思うわけですね。その意味で、やっぱりそこをいかに迅速に集まるか。また、集まらなかったら、集まらなかった時の体制をどうしてカバーするかということでもやっぱり検討されなければならないと思っているわけです。それで、まず第一に確認しました。

町長は、岩地に住んでおられるわけですよ。ということは、もし仮に岩地海岸の室岩、あの辺が崩れた場合、当然こっちに出られなくなってくるわけですね。そうすると、副町長におそらくその指揮命令系というものが伝達されると思うんですけども、副町長さんは、なったばかりですから詳しい情報はまだ継続の事業計画はまだ継承されていないと思うんですけども、今回の参加訓練において一番重視されることはどこでしょうか。

今の朝の訓練において、副町長さんがここに集まられた時に、まず自分がやらなければ・・・、町長が来られなくなったとしたら、最重点課題は何かということです。わかりますか。

○副町長（指出 巖君） お答えいたします。

いま考えていることなんですけれども、第1点は集まった人間の数の確認と役割の確認、そして、すぐやることは情報収集だと考えています。その情報収集によって、どういう行動がすぐできるか、するかということ。各関係機関との連絡ですね。その連携をどうして、どういふふうな初動体制をやっていくかということ、まずそれだろうと私は考えています。

○2番（渡辺文彦君） 今回の副町長さんの発言を聞いて私も安心しました。一応、1点目に関して夜間のということで聞いてはいるんですけども、あくまでも通常ではあり得ない、想定外のことがあった時の体制をいかにして組むかということをやっぴり念頭に置いて防災計画は進めていかなければ、想定外の事態だったということで全部終わってしまう可能性があるわけですね。想定外を少しでも減らすためには、あらゆるリスクを、考えられるリスクを計算して、できる範囲の中で対応していくということが求められているのではないかと思います。

2点目に移ります。災害支援物資とかが人の搬送とか、今回熊本の地震においても大変問題になったわけですね。というのは、道路の寸断ということがあったわけですね。

松崎がもし仮に大きな地震に見舞われた場合、海も道路もかなり利用できなくなる可能性が高いと思うんですけども、そうなった時、空からの輸送・・・、熊本も実際かなり空からの輸送がされていましたが、空からの輸送が必要になると思うんですけども、いま松崎もいくつかヘリポートが確保されています。いま松崎のヘリポートで大型が着けるのは松高だけです。あと、三聖苑は防災拠点として位置づけられていますけれども、小型だけです。三

浦に2か所、大沢、池代に1か所、あとグラウンドに1個、岩科側にはないんですね。岩科の体制をどうするのか。この辺をまず1点と、あと、三聖苑が小型だけでしか対応できない。

今度警察もあそこに、中川に移転することによって、下田の本庁舎が昨日しない場合、あそこに防災の拠点を置くということが言われていますけれども、その時三聖苑が小型でしか対応できないとすると、十分機能できるのかどうか、それをちょっと確認したいんですけれども。

○総務課長（山本秀樹君） おっしゃるとおり、ヘリポートの関係につきましては、それぞれの災害の程度とか、状況によって使える使えないというのが出てくると思います。大型が万が一使えないという場合は、それなりに着陸できる機種を選定をして、例えば自衛隊の方からそういう・・・、こういう情報を伝えて、そういう機種で輸送にあたってもらうという形になるかと思えます。

なお、ヘリポート等の重要性については、我われも従来から懸念してしまして、今後いろんな整備をしていく中で、新たなヘリポートの設置も課題として挙げられています。

なお、先ほどの参集状況の関係ですが、BCPを作った際に、一応そういう避難の状況とか、そういうものを想定して出したものがあります。そうすると、1時間以内に集まれる人間というのは約6割、80人位いた中で43人というような形で、約6割が1時間以内に来られるのかなと・・・。5時間以上経っても難しいという人間も3人位いるという中で、100パーセントになるには、いずれにしても半日以上かかるというような想定になっています。

そういう中で、じゃあ、どうやって初動体制を作っていくのかというと、例えば町の退職した職員等の団体と支援の協定を結んでいますので、そういう退職した方々の協力を得るとか、あと消防団員の協力を得るとか、そういう支援体制の中で初動体制を作っていくというような形になると思えます。

○2番（渡辺文彦君） すみません。1点目で聞き忘れたことがありましたので、もう1回1点目に戻らせていただきます。

いま課長の話の中で、ちょっと思い出したんですけれども、ここがもし使えなかった場合、熊本でも実際防災拠点である役場なりが使えないケースが出たわけですね。ここが使えなかった場合、どういうことを想定しているのか、その辺をちょっと確認したいんですけれど。

○総務課長（山本秀樹君） その大きな問題で津波が来た場合は、例えば浸水高とか、そういうものであれば、今このフロアにいる皆さんは助かるわけです。

ただし、がれきが東日本大震災みたいに押し寄せて建物から出られなくなるとか、建物から行っても道路がみんながれきで移動も困難、登庁も困難という状況があつて、陸の孤島と化す



る場合も想定されます。

一応、ここが使えない場合は、オフサイトセンターをやっぱりつくっていかなければならないというような形で、今のところ想定としては、中川小学校等を幼稚園それから小学校の旧校舎、どちらかを使って、オフサイトセンターとしてそこを中心にやっていくというような予定でいます。

ただ、この辺の整備については、今年度各施設の配置検討委員会等を作りまして、検討を始めたところなので、今後の課題ということになりますが、一応想定としては、中川にオフサイトセンターをもっていきたいなという考え方があります。

○2番（渡辺文彦君） 道の駅は一応防災の拠点として活用することも考えられているという話を聞いているんですけども、その辺に対しては、活用は考えていませんか。道の駅の活用会議がその後開かれたような話も聞いていないんだけど、そんな中でそういう防災拠点としてどのような機能をするかということも話し合わせていないですか。その辺をちょっと・・・。

○総務課長（山本秀樹君） 三聖苑につきましては、自衛隊等が集結する拠点として使うと、以前は防災計画上は警察もということでしたけれども、警察の方は今度分署ができる関係で中川小学校、それで、中川の方は町の一応避難所という形で町もそこを使うことになっていますので、中川小学校跡地は町とそれから警察等が今後そこを利用して使っていくということで、中川の峰輪、大沢界限が防災の拠点になっていくという形になるかと思えます。

○2番（渡辺文彦君） また2点目に戻ります。

先ほど私は岩科にヘリポートが整備されていないんですけども、その辺はどうかということも確認したいと言ったんですけども、その辺はいかがでしょうか。

○総務課長（山本秀樹君） ヘリポートを実際につくるにはかなり広い敷地が必要というような形がありまして、今後用地の取得とか、それから2方向が何百メートル開いていなければいけないとか、いろんな制約もありますので、その辺の適地を含めて、電線等の支障がないところで岩科界限も探していかなければならないとは思っています。

いろんな検討の中で、一つは道部の総合グラウンドはあるわけですけども、総合グラウンド等に行く道がもしつぶれた場合は、岩科の方に行けないということがあるものですから、山口から上のあたりでどこかということになると、なかなか広い用地が見つけれないというのが現状となっています。平野の畑のあたりがどうかとか、いろんな検討をいまやっていますので、西ノ段がとかね。そういうような形で検討はしていますけれども、今のところここという場所は選定されていないというような状況でございます。

○2番（渡辺文彦君） 私も岩科に住んでいる人間として、もしもの時があれば、やっぱり必要になるという施設かと思しますので、なるだけ早い整備をお願いしたいと思います。

3番目にいきたいと思います。3番目は、基本的に①、②も同じことなんですけれども、あえて1、2と3番目を分けた理由はないわけなんですけれども、その中でとりあえず分けましたので、1から伺っていきたいと思います。

町の防災計画があって、いろいろ情報収集とかのことが細かく整備されているわけなんですけれども、実際自分の地域で訓練をすると、町の職員が来て情報を確認しているというような状況なんですけれども、その方がもし来られなかった時に、これはどうして情報を把握するんだという話をこのあいだ区長としましたら、来なければ地区の誰かが、自主防の人間が役場まで行くんだよねという話になるわけですね。

役場の職員が来れば、もし仮に途中で何か事故が起これば公務災害になるんでしょうけれども、自主防の方ですと公務災害の対象にはならないですね、おそらくこれは。この辺も情報を集めなければならぬからということで自主防の方に全部お任せというのは、なかなか厳しい話かなという話にもなる気もするわけですね。

そういう中で、効率的に情報収集ができる方法・・・今の状況でできるならば問題ないんですけども、できなかった時のこともやっぱり考えておく必要はあるんだろうなと。

今回熊本のことを想定すると、そういうことも考慮しなければいけないのかなという気持ちがありまして、あえてこの質問をさせてもらったわけなんですけれども、その辺に対して・・・

○総務課長（山本秀樹君） そういう疑問は当然出てくると思います。今の町の体制では、通常発災後は情報連絡員になっていない職員、情報連絡員は27名いますが、それ以外の職員は直ちに登庁すると。それぞれの情報連絡員は各自分の担当地区へ行って、すぐに情報収集に当たると。それぞれの情報連絡員は行政無線を持っています。要はトランシーバーですね。それを持っていて、それを使って情報連絡をよこすと、情報を把握して連絡をよこすということになっています。

それぞれの35地区を27名でやるわけなんですけれども、それぞれその補助員という形で消防団員が補助員になっています。消防の各分団にも無線機が配備されています。

ですから、それぞれの職員が万が一事故があって、行けなくてもそれぞれ消防団を通じて消防の方から「ここの被害状況はこんな感じだよ」と「こういうようながけ崩れがある」とか、こういう状況であるというのは消防団を通じても情報が入ってくるような形になっています。もし情報連絡員に何か万が一のことがあって行けないということがあれば、消防団を通じて、

こちらの方から指示をして、どこどこ地区へ行って情報を集めてくれとか、そういうような情報収集をするというような形になります。

そのほか、各学校であるとか幼稚園であるとか、そういう所にも無線機が置いてありますので、もしそういう所に先生方がいた場合は、その先生方も無線機等を使って被害状況を報告するというような形になります。

なお、それぞれ各地区の防災委員さんとか、区長さん、自主防の関係につきましても、自主防等で知り得た情報等はすぐに情報連絡員とか、消防団員を通じて本部の方に上げてもらうというようなことをお願いしてありますので、毎年毎年の訓練とか研修会の時にもまた重ねてお願いしていきたいと思っています。

○2番（渡辺文彦君） ちょっと質問項目が多いもので、時間がなくなるので次にいかせていただきます。中途半端で申し訳ないんですけども。

2番目の(2)車中泊の問題なんですけれども、熊本のケースを見て、こういうことも今後増えてくるんじゃないかなと思うんですね。松崎の場合は、やっぱり広域で避難できる場所が少ないと思います。それを考えると何件かが分散的にあちこちに散らばって、車中泊みたいな形をとるんじゃないかなと思うわけですね。それを自主防なり地域の方で把握できるだろうというふうにおっしゃるんですけども、実際、自治体も被災している中でそれが本当に機能しているかどうか、現実には熊本でも車中泊の人間の情報把握が非常に困難だったということが挙げられているわけですね。そういう状況の中で、松崎は更に困難じゃないかなと思うわけですね。その辺の整備もやっぱり十分進めていかないと、やっぱり後手に回るんじゃないかなと思います、その辺に関しては。簡単で結構です。

○総務課長（山本秀樹君） 原則的には、情報連絡員等が自分で歩いて、また消防団員と自主防から情報を得て、どこどこに誰がという形にいるよとかという情報を得るわけですけども、なかなかそういう情報が全て網羅できるかという点と難しいかもしれません。

ただ、現状としては、例えば警察にしても、駐在さんがいるくらいであんまり警察も来られないということになれば、やっぱり一番目が多いのは自主防の方々ということになりますので、それぞれの近所の方々があそこの人たちがあそこにいるよとか、この人はここにいるよという情報をそれぞれが自主防の区長さんに伝えて、区長さんから消防団なり情報連絡員を通じて情報を挙げてもらうということが一番早いのかなと、確かなのかなと思います。

各広域避難所もないので、各公民館がその中心になってくるかと思っていますので、公民館等の耐震化にも今後は取り組んでいきたいなと思っています。

○2番（渡辺文彦君）　いま課長がおっしゃるように自主防との連携が非常に大切になるんだと思いますけれども、自主防もみんな人口減少、高齢化の中でなかなか自主防そのものが機能し得ないところもあるのかなという気もしますので、そういう各地区の自主防との連絡を密にして、防災体制の整備をなるだけ・・・完璧まではいかないでしょうけれども、できる限りの対応をしていただきたいと思います

3点目にいかせていただきます。火災・・・、このあいだ修善寺で火災あった・・・、初期消火の時にホースが使えなかったという話がありまして、松崎ではそんなことはないねと元消防団の方と話をした「いや、松崎にもあるんだよ。これは」と言われて、「どこであったんですか」と言ったら、岩科の指川でボヤがあった時に実際使おうと思ったら穴が開いていて使えなかったということです。これを考えた時に、これは松崎でもやっぱりちゃんと点検しなければまずいんだなということで、あえてこれで設けさせてもらったわけですがけれども。ただ、消防団の方に言わせていただくと、今の消防団は数が減っているし、仕事も持っているから、自分らで全て点検するのはかなり困難なんだということを知りました。

でも、困難だからといってやらないわけにはいかないわけですよ。いざ使おうと思った時に使えないという状況では困るわけですから、やっぱりその消防団の負担を今以上にかけないで、何とか点検をスムーズにする方法を考えなきゃいけないだろうと思うわけです。

そういう中で、消防団の方からこんな提案がありました。消火ホースは何も使わなくても3年経てば劣化して使えなくなるんだと、それじゃあ、何年間ならばそのまま置いておいてもいいのか、そのデータが欲しいと。そのデータを持っていたら、それを教えてもらえば、とりあえず何年間かは新しいホースを点検しなくても済むだろう。その期限がきた時から順次それを点検していけばいいだろうという話なんですけれども、その辺の耐久性、ホース自体の耐久性に対するマニュアル的なもの、そういうものを町は把握していますか。

○総務課長（山本秀樹君）　このホースが何年もつかというのはありません。メーカーに聞いてもありません。置かれた環境とか、そういう条件によっていろいろ変わりますということです。手入れとかそういうもので長持ちもすれば、早く劣化もするというような形にもなります。

消火栓自体が、いま町内に306か所あります。ホースが918本、そのほかポンプ車等を入れると1200本町内にはホースが配置されているということになります。毎年平均100本位更新をしているわけですがけれども、その指川の件があって消防団の方にも反省として検討し合いましたけれども、以前はやっぱり消防が査察の時にそれぞれの持ち分の小隊が自分のところの管理し

ている担当者がいますので、その担当者等が消火栓のところに行って水出しをして、必ず確認をすると、年にいっぺんは確認するというのをずっとやってきました。

ただ、それがいつの間にかそういう点検をするのが煩わしいというような風潮ができたらしくて、このあいだの指川のような点検しないでいつの間にか使ったら随分水が漏るというような状況になったということで、これは消防団としても大いに反省すべきことだということで、それぞれ担当する消火栓については、必ず点検をするようにという通達を消防の方からも出したところでございます。

いずれにしても、各地区の消防体制をやるのは消防団に担ってもらわなければいけないということになりますので、それぞれの消防団の方でそれぞれ点検をしてもらうというようなことを強く再確認したというものでございます。

○2番（渡辺文彦君） おそらく課長の答弁だと私はずっと想像していたわけです。各消防団にやってもらうしかないという回答だと思っています。

そういう中で先ほども言いましたように、消防団に入ってくれる人も少ないし、自分らも仕事を持っていて、なかなかできないことも多いんだよという状況がある中で、またその消防団を配慮した点検整備を考えていただきたいと思います。

時間がないので次にいきます。仮設が必要になった場合、どこかということで、グラウンドということなんですけれども、グラウンドも一応浸水区域ですよ、あそこは、L2ですと、レベル2の災害ですと。そうすると、場所が限定されるという気がするんですけれども、ほかにも今度、そこは宮内ですか、そこも話が出ましたけれども、それ以外では全然足りないですよ、今の状況では。これも時間がなくなりますから答弁は結構です。

ほかにも早急に、ほかに代替地を探していただきたいと思います。

5番目の職員の災害時の職員の業務の体制ですけれども、これも防災マニュアルで全部書かれているから、そのとおりにやっていたらいいですけれども、問題は、町長もおっしゃっていましたように、職員は暫くの間は不眠不休の感じで業務に、災害対策に当たらなければならないという状況が生まれると思います。

そういう中で、かなり職員が健康面で害を・・・、健康を害したという報告が東北大震災の時にされていました。今後のその復興に向けてのBCPですか、進めて行く中で職員がだんだん、だんだん疲へいしていくということになれば、この計画も進まなくなるわけですから、職員の健康も配慮したことをやっぱり考えていくべきだということをやったり専門家指摘してました。私もそれはやっぱり必要なのかなと思いますので、これを挙げさせていただきました。

次にいきます。

○議長（稲葉昭宏君） 渡辺君、申し上げます。時間を延長しますか。

○2番（渡辺文彦君） お願いいたします。

○議長（稲葉昭宏君） 時間延長5分を許可します。

○2番（渡辺文彦君） 地方創生に関する議論なんですけれども、1点目は美しい村フェスティバルのことなんですけれども。去年、長八生誕200年祭が行われて、ぼくとしては、どっちかという一過性で終わったフェスティバルだなという感じがあったわけです。ですので、今年のフェスティバルも一過性の計画でないように、事前に計画されて、次にまた、来年以降にも事業が継続して、町に何かいいものがあるような形で進めていただきたいということで挙げさせてもらったわけなんですけれども。とりあえず、そういうところで、問題は次の2点目の方にさせていただきます。桜葉振興、過疎地計画自立促進計画の中で、28年度に1000万円の国からの補助金が出ているわけなんですけれども、この1000万円は28年度、単年度だけの処理になっているわけですね。町の会計は単年度主義ですから、基本的には28年度で1000万円を使うということになるとすると、計画がある程度はつきりしないと結構厳しいのかなと思うわけですね。そんな中で、とりあえずどんな計画を予定されているのか、概略で結構です。

○企画観光課長（山本 公君） ただいま桜葉の振興の関係でお話をいただきました。今年度1年ということになるわけなんですけれども、町長が先ほど長嶋議員の質問にもお答えをさせていただきました。生産ですとか流通ですとか、開発ですとか、その部分についての予算を使っていくということの中で、先ほどもありましたように有機肥料での栽培ですとか、あるいは耕作放棄地なんかの関係なんかもありまして、そこで試験的に植えたりとかということもありましたり、あるいは地理的表示、G Iと言うんですかね、そこのブランド化をしていくというようなこと。あるいは桜餅以外の桜葉の商品の開発、先ほど町長の方から掛川のお茶とか、化粧品みたいな話もありましたけれども、そういうものも考えていく、あるいはPRしていくことも必要だということの中で、今年度それらにかかっていくというようなことでございます。

細かいものについては、補正予算の中でもそれぞれ1025万円でしたかね。過疎の関係の事業で、それは全部桜葉の関係の事業ということで上げてございますので、そちらの中で説明をさせていただきますけれども、生産、流通、開発に関する事業を展開させていただくということでもあります。

○2番（渡辺文彦君） 私もこの補正予算の中で細かく出ているというのは知らなかったもので、考えるということをしてなかったもので、これは私の方の提案なんですけれども、この1000

万円を使って、松崎の美しい村のフェスティバルの時に桜葉を使った食のコンテストなんかをやっていただきたいと思うんですね、ぼくは。それによって全国に・・・、全国のプロ、アマ関係なく作品を募集して、ここでコンテストをやって宣伝していただきたい。そうすれば、松崎の知名度は上がるんじゃないかと私は思うわけです。そんな取り組み・・・、あとは今、桜葉に関しては、耕作放棄地、面積が減っているということに対して、鳥獣被害の問題もあるわけですね。今、町ではメッシュなんかの鳥獣被害に対する10万円の補助があるんですけども、可能であれば20万円位この予算の中で、桜葉の1000万円の中の利用の仕方の中で、桜葉に関してだけは20万円にするとかという対応もされてもいいんじゃないかなと・・・、それは、それを担う労務費に含めても構わないような形で、桜葉生産地の拡大を図るということに使ってもらうのもいいのかなと思っています。

それはもうみんな補正予算の中で決まっているならば、言っても仕方がないことかもしれないですけども、私はそんなことを考えたわけですね。

もう一つ、次にいきまして、もう本当に時間がないもので。次に、4番目の交流人口を増やすことに対する案ですけども、この間、このことは観光協会の総会の時にも話させていただいたんですけども、伊東市では、伊東市に来られる観光客に対してアンケートを取りまして、何のための、どういう目的をもって伊東に来たのかということの調査を細かくしています。それによって、いろいろなデータを集めているわけですね。

松崎は実際こういうデータを集めているんでしょうけれども、ぼく自身ははっきりそれを把握していないもので、それをやらないと基本的にセールスの対象がぼけてしまうんじゃないかということがあるんですね、言いたいことが。何でもかんでも松崎はいい所ですから来てください、風光明媚だから来てくださいではなくて、松崎のこんなところをPRした方がいいことが・・・、お客さんのニーズではっきりしてきます。それに合わせた宣伝をしていかなければ、効果は薄いのかなと思うわけです。

この間ある方と話をしていたら、雲見に来るお客さんと松崎町内の観光客は全然違うとおっしゃいました。雲見のお客さんは、“食べる”“温泉”というパターンだそうです。松崎の町内を散策している方は、“歴史”“文化”だそうです。ということは、松崎一本で松崎を説明しても目的が違うわけですね。町長もよくおっしゃるように、今の旅行者というのは目的がはっきりしているわけです。だから目的、ターゲットを絞った宣伝をしていかなければ、ただむやみやたらに町の宣伝をしてもやっぱり効果は薄いのかなと思うわけです。もっともっと具体的なニーズ・・・、絞った宣伝、発信をした方が効果的なのかなと思いますが、それについて意

見を述べたいと思って、ここに質問を挙げさせてもらったわけです。

4番目のシェアオフィスの問題なんですけれども、この間の工事現場も視察にあたって、地域おこし協力隊の方、富士ゼロックスの方等に有効に使っていただきたいということを聞いているわけなんですけれども、ただ問題は富士ゼロックスの方が・・・、地域おこし協力隊がここに、松崎に住んでいるからいいんですけれども、富士ゼロックスの方、またほかの関係企業の方が来られた時に、ここに居住しなければいけないわけですよ。居住する環境というのはできているのかどうかですね、問題は。

ここで・・・、インターネット関係ですから、仕事はそこで機材があればできるのかもしれないんですけれども、そこに来て定住できるだけのそういう空間があるのかどうか、その辺をちょっと伺いたいんですけれども。

○企画観光課長（山本 公君） 現在、空き店舗を活用したシェアオフィスということでやっています。富士ゼロックスさんも入っていただいてやっているわけなんですけれども、先ほど町長のお話がありましたけれどもシニアインターンシップ、企業を退職された方がこちらに来て、住まいは都会に置いておいて二地域間を居住して、地域の課題を一緒に解決していくというような方法もありますし、そこへ必ず・・・、今回整備しているところへ住めるわけではありませんので、あるいは空き家を活用した中で定住をしていただくというようなことも当然あるかと思っておりますので、そのあたりは企業の皆さんとも今後協議していく中で、こういう形が望めるのかということも考えてまいりたいと思っています。あそこにそのまま住むわけではないので、その辺は空き家を活用していくというようなことも当然考えられると思います。

○議長（稲葉昭宏君） 町長の答弁はいいですか。

○町長（齋藤文彦君） 同じ文彦で、答えなくて申し訳ないなと思って、ずっと考えていたわけなんですけれどもちょっとその前に、防災のことでちょっと考えたことがありまして、いま総務課長が答えたわけなんですけれども、松崎町として、できるだけことはやっているわけでございます。

ただ、私が分団長として阪神淡路の大震災の時に、北淡町に視察に行った時に消防団の方と本当にじっくり1日話したわけなんですけれども、その時に消防団の方の話で、もう3日間は何も動けなかったと、職員も集まらなかったと言っていました。

だから、どういう災害が松崎町に起こるかわかりませんが、大きい災害が起きた時には、たぶん松崎の役場も消防団もその他いろいろな組織もやっぱり3日間位はほとんど動けないと思います。だから本当に自分の命は自分で守る。家族の命は家族で守る。最低3日間位は



自分たちの家族で命を守るぞというのは、町の皆さん方のそういう決意というのがないと、何でも町に任せればいいなというようなことになると、非常に私ほうまくなと思いますので、訓練以上のことは何もできないと申しますから、本当に訓練を重ねて、頭の中でもいろいろ訓練を重ねて町の人がやってもらいたいなと思っています。

それで美しい村ですけれども、私がなぜこの美しい村に入ったかという、松崎町は花とロマン・・・、長くなって申し訳ないですけど、花とロマンのふる里づくりで町はやってきたわけですけれども、「日本で最も美しい村」連合の目的というのが、地域の財産を使って町民の自主的参加を得て経済的に自立する。これはおれたちと同じことをやっているんじゃないかということで入ったわけで、これをうまく中に入って切磋琢磨してやっていきたいなと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君） 時間ですので、渡辺君、一応一言で締めてください。

○2番（渡辺文彦君） 今日2点についてお伺いしたわけですけども、やっぱり防災計画は予想できないことが多い・・・、自然災害は予想できないことが多いから完璧な防災計画はできないとは私もわかります、それは。

でも、その中でできる限りの体制は必要かなと思いますので、あえてここで質問させていただきました。

あと、地方創生に関しては壇上でもおっしゃいましたけれども、やっぱり町民が町を元気にして欲しいという声があります。そこ事柄にやっぱり・・・、この総合戦略ができたわけですから、それを大いに活用して町が元気になるように施策をぜひよろしくお願ひいたします。これにて質問を終わります、ありがとうございました。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で渡辺文彦君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午後 1時55分）

---